機輸出を禁止

「ベルン二日酸國通」バーンドン ・ツのボルム特電によれば 下戦 ・ツのボルム特電によれば 下戦 をしてラドガ湖の北方に潰 これ をしてラドガ湖の北方に潰 これ をしてラドガ湖の北方に潰 これ

日職車を有するを

通、これを撃破し目下〇〇方面に猛進中地弾撃通信材料其他多数である 地弾撃通信材料其他多数である 地弾撃通信材料其他多数である 大幅に対明せる数果は確認せし敵道察院監 乗結しついあるでもつてわが各兵團は数日來相呼應

写原を猛進撃 (於河北省)

設行所

### 千籽に三 宮殿下 湿の途につかせられた の御疲勞の御色もなく御馬 85 M.17

郷司令官より 軍状を御悪収 軍大を御悪収 (東京三日愛國通) 秋父宮 京に御着、直ちに支那派道

京羽田飛行場御出發中支職京羽田飛行場御出發中であらせられた 緑御視察中であらせられた 科文宮殿下には御財武官一 行場に御勝還の御子歩を印 せられ、林部隊の貴賓室に せられ、林部隊の貴賓室に 世られ、林部隊の貴賓室に

地急襲

支に巨弾の雨

路御東

一歳に尚ほ力を致してゐるのが何よりの强みで印象です。併し陸軍省にあつて滿洲班で大陸大名から足輕へ、誰かの云つたことが今の私

車、バスにもまれ乍ら、三宅坂に通動してる杉並属阿佐ケ谷の茅屋に居を定め毎日鮨詰の

東京は、日本は、土地狭く人の

理が、 国は四省奥地敵主要援助の 国に西省奥地敵主要援助の 国に正る敵 の猛烈なる防禦砲火を冒し の猛烈なる防禦砲火を冒し が設を反復爆撃これに甚大 なる損害を興へ全機無事職 では、なる損害を興へ全機無事職

の敵を急追

大臣官房調查課理事官 大臣官房調查課理事官 主郎

命者產局家畜保險課長。 水產局水產課長 不可 地古 偽和會指導會議

州検事トーマス・デエユー へてかねてより瞭にのぼつ へてかねてより瞭にのぼつ 選擧に立候補 きことはせぬであらう
るところに介入するが如
立場をとり英國の如く至
題に對しては終始傍觀の 給事大統領

▲立山軍藏氏(首更)同 | 內野正夫氏(滿洲輕金屬) | 同 | 一 | 南南貞夫氏(同)同 | 一 | 一 | 本南貞夫氏(同)同 | 一 | 一 | 本南貞夫氏(同)同 | 一 | 本南貞夫氏(南)同 | 本南貞夫氏(常浦貴)同 | 本別原語三氏(無電技師) 

練所へ) かで三百七十七名〈二殿 れて三百七十七名〈二殿

入事 往 云 時計修理部大擴張

• ▲竹内松次郎氏(帝大教授) 同 ▲貨田定次組氏(信)ヤマ 子四郎治氏(三榮製機) テル (肥料商) 櫻 上登氏(吉林高女校長)

議に晴れの代表として電大ルガ國境確定委員會チタ會

チタ代表

一名の他會組織の統一强化に 大多大の成果を取め終了、 一個上海議を重ね、緩いて一 が、明年度協和會工作大綱 に基く具體的實施要領欄立 上多大の成果を取め終了、 全職店において機本中央本

輝く壯途へ

財計割スエーデン公便は二 日英國政府に對しても同様 ランス政府に對してあると 社選は関際法選及であると も抗議を提出した、なほフ ランス政府に對しても同様

國際聯盟へ提訴 約等に介入せず 訴することに

▲湾水間更耳(密剤よ)層

の海山(ミョシ化路)同

▲館下文吉氏(木材業)同

待機の姿勢

【ベルリン二日漫園通】ドイツ外務省は二日の記者圏との定例會見においてソ聯ションドの紛争に對する態度につき次の如く表別した。 獨、傍觀態度表明

ア源モ 軍

の優別ないます。 の優別なは優更的に見てべート の優別ななかなかったに になっていますが、 の優別なないである。若し英 の優別ななかなかったに を要的ななかったに の優別がなかったに の優別がなかった。 のののである。 ののである。 のので。 のので

左翼政権と

▲海泽原一氏(三姿的事) ▲海介所氏(宮池島)同 ▲海介所氏(宮池島)同 本連介所氏(宮池島)同 テル 旧利隆氏(官吏) 國際

おにより

政府間のないとう

刊四頁

花の句ひと 典型の女性に贈る この色! 養毛美髪効果第一の 艷





黄將軍福建丁

福建住民大好威

一東、福建兩省は 東、福建兩省は

豫附め住る特固特す

政院が開拓用地として買收なるに鑑み開拓開地として買收なるに鑑み開拓總局が中心となり関係方面との関において議を練つてみたが、この程大綱方針を決し各場係

は飯長が直接これに営 連に勢 めると共にそ 産を確保するもので、 産を確保するもので、 のはについては現在の 保するが現住民により されてゐる土地につい

又族地域の大阪 (大阪 ) 大阪 (大

(厦門二日發國通) 数溴嶼 で着任することになった を編出上軍軍運海運網建え で着任することになった で着任することになった

を許 一氏に決定を見、同氏は基準に対 で新任することになった で新任することになった で新任することになった で新任することになった 海東亜別文書院卒業後約十年に亘り上海工部同に 大手でその手腕は大

大成 るため顔を 大成 るため顔を 大成 るため顔を で完 してゐるが 上でゐるが 大成 を第二次で

内容は汪氏側においたの別係にの

日本と共に大亞細亞主義へ

3

支航空協定

撃による火災は附近民家に 十名以上に及んだ、更に爆 大変に政府官吏の死傷は六 大変に破壊した外支那軍將

まで延続百餘戸を灰燼に勝 世しめた、その他の被害も 世人と見られそのため綏靖

重慶政府が締結か

宋子文香港

明春を期

新艦續々竣

## 明年紀元節祭は 全國神社で大祭 祝詞、祭式も決める

一定規律の統制ある行事次では五日内閣情報部に内務

第を定め全國一斉に整然た

政治である

九段

**父對面** 

心型の責任を分擔

をして歐米の經濟便略と 経濟腰迫から解放せしむ るにある、これに對し孫 先生は二つの方案を定め が努力する。これに對し孫 光生の中日關係を定め 大生は二つの方案を定め であり、第 一は中國自身 が終力することであり、第 経来観念信終始變らな が発力することであり、第

医年の多のしたなたなと、では、中央に変し、 を対したが、 をがしたが、 をがしが、 をがし

中 平 運動 ・ 一は共同防虫、一は經済 ・ 一は共同防虫、一は経済 ・ 一は共同の原則が提出さ ・ には三個の原則が提出さ ・ には美国の原則が提出さ ・ には美国の原則が提出さ ・ には美国の原則が提出さ

民主義と和

英領某地に向ふ宮 中前三時五十五分天津磯泰 皇島に向つた侗所より海路 皇島に向つた侗所より海路 ンフアントリー部隊の引揚 屯英國ダルハム¢ライト・イ で英國ダルハム¢ライト・イ

(日本電化) 世長隆二 (日本電化) 世長隆二 (日本電化) 世長隆二 (日本化成) 理事高井 (日本化成) 世長隆二 (日本化成) 世長隆二 英駐市軍 は大陸左の

秦皇島に向ふ

御宴會は廿五



(元山粹跡) 電③六三三八番 三笠町三ノー

凌ぐ傑作です。

果然大反響! 統後より感涙の書狀の書歌 大感激小說。

種方策を協議したが右に出 、輸送の関常化に関し種 、輸送の関常化に関し種 、輸送の関常化に関し種

務木村正道氏は

歸連語る

生必常務

俱 新京聖德合 部 第二回發表

# 汪精衛、新中國を語

で車 き筋の情報によれば宋子文で車 き筋の情報によれば宋子文で車 き筋の情報によれば宋子文は一日級かに香港に來蒲しが、同日から二日にかけて王曉氏と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と類りに會合して時局問題と

協議中である 協議中である

のため工業力を總動員して イツ政府は目下海上戦に主 イツ政府は目下海上戦に主

(日曜月)

支那派遺軍總司合部に會堂旬わが宣傳主任、幕僚等が

成文の

佛海の雨氏等

数國の第一の要決は中國 は敦國にあり、しかして 民主義を實行す

《香港二日發國通》是明來 電によれば重慶政府と雲南 であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい であるが、一方重慶におい に龍雲の反共運動を口實に最 が重慶から是明に來りすで に龍雲の反共運動に精神的 党級氏を新會長に迎へた中 党級氏を新會長に迎へた中

上大好成

「大好成」

「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好成」
「大好

敵將校、官吏死傷多數 

肺地管理方法決る

しよし利

尼福田氏推薦

現耕作者の安定考慮

高井理・本セルロイ本を記れている。 識た、日 飯を 会よ に 三 社 行

いである會就法改正のでは日下家

改正 護受けることに決定して居職本主總會を開き三 議受けることに決定して居職を 電業持株中より各百萬興を 三 就とも参加に當つで講洲 一三 就とも参加に當つで講洲 に乗り出すことゝなつた、 に乗り出すことゝなつた、

の正式決定をまつて 正式調印 鼓浪嶼工部局

肛內 門科

病小. 科科 院

三社参加も

イアを建立した。 一年を建立した。 一年を表現して、 一年を表現して、 一年を表現して、 一年を表現して、 一年を表現して、 一年を表現して、 一年ので、 一年ので 滿洲電化建設

重慶部內右

龍雲の反共に同情

三日朝入港の熟河北で購滿 知内登の方針につき左の

Off IN

摘にその極に達して居る 動し市中の混乱、人心の動

骨董的陳列さけて

に實現せんとの優悟を限めた博物館整設の持論を早急

國都にまた自慢

活きた博物館を

藤山副館長談

救護作業に勤務してる 満と戦ひ身命を賭して 満と戦ひ身命を賭して で成び病院船に寒暑怒 に東京國通1.畏くも皇

御菓子を下賜 日赤救護員に

# 対でいと酸かに東京 ・ 「大電子会社等があす」 ・ 「大電子会社では三日全前十時から新京神」 は三日全前十時から新京神」 は三日全前十時から新京神」 は三日全前十時から新京神」 での漫画の解あつて入營兵 ・ 「大電子会社を要校代」 ・ 「大電子会社を要が、「大電子会社を要求」 ・ 「大電子会社を要求」 ・ 「大会社を要求」 ・ 「大電子会社を要求」 ・ 「大電子会社を要求」 ・ 「大電子会社を要求」 ・ 「大電子会社を要求」 ・ 「大電子会社を要求 ・ 「大会社を要求」 ・ 「大会社会社を要求 ・ 「大会社を要求 ・ 「大会社を要求」 ・ 「大会社を要求 ・ 「大会社会社を要求 ・ 「大会社を要求 ・ 「大会社を要求 ・ 「大会社を要求 ・ 「大会社を要求 ・ 「大会社を要求 ・ 「 感激満つ

に表電を會社額原君の条件祭1 とて盛大裡に終了した【寫 との意識を三唱

# 初春またずして早くも湧く 一慶祝

司 員會を開催、傳へられた各 | に闡明する慶祝宣言の大綱 | ある | 本務局を協和會臨時部豫算た | 上豫第その他の目安つけ政 起草準備 | 本務局豫第をあつていよい | 基準を決定、一路その實現 | 念式典念 | 本務局豫第をあつていよい | 基準を決定、一路その實現 | 念式典念 | 本を前に | 本を開いる | 本を前に | 本を前に | 本を可能に | 本を可能に | 本を開いる | 本を可能に 盟邦日本の聖典奉讃

な式典参加招請 な式典参加招請 ここをり、日本間 起草準備を進めて

■粉雪降る日曜日■■

LILLING 銀盤は花咲競ふ LILLING まで、 Manager 1 Manager 2 Manage

動の途中ですがこれを國防との國防徹金

强ひて名を聞いたところ三

林檎を許数日乃

右御希望の方は本人來談ちり度し
古野町四ノ一(記念公會堂横角)
おでん小夜改め
いでん小夜改め

八才位窓集

電話(3)五人五人番人

腹脈書(自統)遞送相威度而會日追而當方 新京朝日通東二條通

## た開拓行政基本要領の趣旨日頼南國間に今回測定され **杷對安靜**患者

金ゆゑる

四に非難

**首腦者講習會** 

0

街の開業隊

満系會員の獲得へ

では、 の下に「協和の集」を使 の下に「協和の集」を使 の下に「協和の集」を使 の下に「協和の集」を使 の下に「協和の集」を使 の下に「協和の集」を使 の下に「協和の集」を使 のは十一月二十 が、當日は茶菓の接待、 動途中へ同僚の が、當日は茶菓の接待。 動途中へ同僚の が、當日は茶菓の接待。

製は二日午前十時から新京 崇和局疑獄事件控訴績行公

對 兩洲割當决定

慰問袋二萬個 國婦のプレゼント



の附着せる機械器具の御ミガギ御台所用品。金物類の錆付き油

部部

支

店 大連市紀伊町二〇番地店 大連市紀伊町二〇番地 店 新京豊樂路七〇五番地店 奉天市信濃町一三番地

廣告の御用命は Masson IIII 00%へ

保刑一般法律事務 民刑一般法律事務

斋店

曜月三第と一第日休定月毎

電話②三

△詐欺收賄 元九台豪租局 第